

記載されている情報の正確さについては万全を期しておりますが、当会は利用者が当会の情報を用いて行う一切の行為について、何ら責任を負うものではありません。

情報カテゴリ：学術論文情報

主に該当する領域区分：全般

タイトル：Recommendations for respiratory rehabilitation in adults with COVID-19

概要：中国およびその他の国からの最新の研究結果と呼吸リハビリおよび COVID-19 に関する蓄積された臨床経験を組み合わせて、呼吸リハビリのタイミングや様々な段階の臨床問題を対象とした呼吸リハビリプロトコル改訂版の報告（第2版）。

出典

https://journals.lww.com/cmj/Abstract/9000/Recommendations_for_respiratory_rehabilitation_in.99313.aspx

アクセス日：2020-5-17

情報カテゴリ：学術団体からの情報

主に該当する領域区分：全般

タイトル：Rehabilitation of adults who are hospitalised due to Covid-19: physiotherapy service delivery

概要：The Chartered Society of Physiotherapy (CSP)から出された Covid-19 により入院した成人のリハビリテーションの standard です。評価と目標設定。リハビリのタイミングと強度。ケアとコミュニケーションの継続性。コミュニティで継続的なリハビリテーション。個人用保護具（PPE）とリハビリ中の感染管理について書かれています。Covid-19 が原因で入院した成人は、個別の臨床評価とリハビリテーション目標に基づき、臨床的に可能な限り早期にリハビリテーションを開始するべきと記載されています。

出典

<https://www.csp.org.uk/publications/rehabilitation-adults-who-are-hospitalised-due-covid-19-physiotherapy-service-delivery>

アクセス日：2020-5-14

情報カテゴリ：学術論文情報

主に該当する領域区分：回復期

タイトル：The Post-COVID-19 Functional Status (PCFS) Scale: a tool to measure functional status over time after COVID-19

概要：POST COVID-19 の患者さんは退院後の、身体的、認知的、精神的、社会的な機能障害を呈することが予想され、退院後も生存者のケアが重要となる。今後、多数の COVID-19 生存者を追跡調査するとなると簡単かつ再現性の高い評価バッテリーが必要となる。そこで筆者ら "Post-COVID-19 Functional Status (以下：PCFS)" を作成した。退院時、退院後4週間、8週間、6ヶ月に機能障害を評価していくもので、実際に、PCFS をオランダのライデン大学医療センターとスイスのヴィンタートゥール病院では臨床に導入する予定。無料で使用可能です。

出典

<https://erj.ersjournals.com/content/early/2020/05/07/13993003.01494-2020>

アクセス日：2020-5-14

情報カテゴリ：学術論文情報

主に該当する領域区分：（高度）急性期

タイトル：Clinical course and risk factors for mortality of adult inpatients with COVID-19 in Wuhan, China: a retrospective cohort study

概要：中国武漢の 2 病院、191 名の患者を対象とした死亡への影響因子を検討した多変量解析。年齢、高い SOFA スコア、入院時の D ダイマーが $1\mu\text{g/ml}$ 以上は院内死亡率の上昇と関連があった。

出典

[https://doi.org/10.1016/S0140-6736\(20\)30566-3](https://doi.org/10.1016/S0140-6736(20)30566-3)

アクセス日：2020-3-11

情報カテゴリ：学術論文情報

主に該当する領域区分：（高度）急性期;回復期

タイトル：Abnormal pulmonary function in COVID-19 patients at time of hospital discharge

概要：2020 年 2 月 5 日～3 月 17 日の間に、臨床的に確認された COVID-19 患者が登録された研究で、退院前に肺機能検査を実施しています。患者内訳は軽症 24 例、肺炎 67 例、重症肺炎 19 例の 110 例で、平均年齢 49.1 歳、女性 55 例(50.0%)、44 例(40%) の患者には最低 1 つの基礎疾患があった(高血圧 23.6%、糖尿病 8.2%、慢性呼吸器疾患 2.7%)。重症別の 3 群に、性別、喫煙歴、基礎疾患、BMI に差はなかった。発症から肺機能検査までの期間は、軽症例 20 ± 6 日、肺炎例 29 ± 8 日、重症肺炎例 34 ± 7 日だった。肺機能検査の異常は、%DLCO 51 例(47.2%)、%TLC 27 例(25.0%)、%FEV1 15 例(13.6%)、%FVC 10 例(9.1%)、FEV1% 5 例(4.5%) だった。重症度別に拡散能の障害程度を見ると、軽症例 30.4%、肺炎例 42.4%、重症肺炎例 84.2%と有意な異常差を認めた ($p<0.05$)。また、重症肺炎例の %TLC は極めて低かった。その他の換気障害 (e.g. FEV1、FVC、FEV1/FVC) では重症度別に有意差を認めなかった。

出典

<https://erj.ersjournals.com/content/erj/early/2020/05/04/13993003.01217-2020.full.pdf>

アクセス日：2020-5-10

情報カテゴリ：学術論文情報

主に該当する領域区分：全般

タイトル：コロナウイルス病の神経学的影響 (COVID-19)。神経科学コミュニティのための実践的考察

概要：COVID-19 感染者の中樞神経症状は、あまりはっきりしない非限局的な症状から脳炎のような重篤な症状まで多様に認められている。これはウイルスによる直接的な被害なのか、全身性の影響が脳に波及しているだけなのかは明らかになっていない。また、ウイルスは脳幹にも影響を与え、間接的に呼吸機能障害を引き起こす可能性もある。

出典

<https://www.ncbi.nlm.nih.gov/pmc/articles/PMC7202815/>

アクセス日：2020-5-16

情報カテゴリ：学術論文情報

主に該当する領域区分：全般

タイトル：COVID-19 による消化器症状

概要：要約 COVID-19 は肺だけでなく、下痢、嘔吐、嘔気、腹痛などの消化器症状を伴う。消化器症状は呼吸器症状に先行して生じることがある。また、SARS-CoV-2 ウイルスは糞便から検出されることがあり、直腸は鼻咽腔よりも長い期間ウイルスが残存する。

出典

<https://www.ncbi.nlm.nih.gov/pubmed>

アクセス日：2020-5-16

情報カテゴリ：学術論文情報

主に該当する領域区分：在宅期

タイトル：COVID-19 在宅監禁による運動不足が神経筋・心血管・代謝系の健康に与える影響。生理学的・病態生理学的意味合いと身体的・栄養的対策の推奨。

概要：COVID-19 の蔓延によって長期間の外出規制がかかり、それによって身体活動が大幅に制限されている。筋肉は2日間の不活動でも萎縮が生じる。糖代謝は、不活動によって骨格筋のインスリン感受性が低下することで障害される。有酸素運動能力は、心血管系から骨格筋までの酸素輸送過程全てが障害される。不活動状態で過剰に栄養を摂取すると、脂肪が蓄積され、全身性炎症が誘発される。これらの課題は、運動不足を解消することで解決可能である。また、家庭でできる運動と併用して摂取エネルギーを15～25%削減することも効果的である。

出典

<https://www.ncbi.nlm.nih.gov/pubmed/?term=32394816>

アクセス日：2020-5-14

情報カテゴリ：学術論文情報

主に該当する領域区分：全般

タイトル：コロナウイルス病の神経学的影響 (COVID-19)。神経科学コミュニティのための実践的考察。

概要：COVID-19 感染者の中枢神経症状は、あまりはっきりしない非限局的な症状から脳炎のような重篤な症状まで多様に認められている。これはウイルスによる直接的な被害なのか、全身性の影響が脳に波及しているだけなのかは明らかになっていない。また、ウイルスは脳幹にも影響を与え、間接的に呼吸機能障害を引き起こす可能性もあることが示唆されている。

出典

<https://www.ncbi.nlm.nih.gov/pubmed/?term=32387786>

アクセス日：2020-5-14

情報カテゴリ：学術論文情報

主に該当する領域区分：慢性期;在宅期

タイトル：Respiratory rehabilitation in elderly patients with COVID-19: A randomized controlled study

概要：短期間の慢性期高齢 COVID-19 患者の呼吸リハビリの効果に関する報告。発症から 6 ヶ月以上経過した高齢 COVID-19 患者に対して、週 2 回の 10 分間の呼吸リハビリテーション（呼吸筋トレーニング、咳嗽、横隔膜トレーニング、ストレッチ）と口すぼめ呼吸や咳嗽トレーニングのホームエクササイズを 6 週間実施すると呼吸機能や QOL、不安の改善を認めた。しかし、抑うつや ADL は変わりなかった。

出典

<https://www.sciencedirect.com/science/article/pii/S1744388120304278?via%3Dihub>

アクセス日：2020-5-14

情報カテゴリ：学術論文情報

主に該当する領域区分：全般

タイトル：COVID-19 の COPD と喫煙に関連する有病率、重症度、死亡率

概要：【COVID-19 の COPD と喫煙に関連する有病率、重症度、死亡率】 COPD や喫煙者の COVID-19 によって引き起こされる潜在的な重症度と死亡リスクをまとめたシステマティックレビュー。2473 人の COVID-19 が対象となった。死亡率は 7.4%であった。COPD 患者は、COPD のない患者と比較して、より重篤な疾患のリスクが高かった（重症度のリスク=63%(22/35)）。重症化の患者は高い死亡率（60%）であった。喫煙者の 22%（31/139）と元喫煙者の 46%（13/28）には深刻な合併症があることを示した。元喫煙者と喫煙していない人に比べて、重度の合併症を起こす可能性は 1.45 倍[95%CI：1.03-2.04]であり、現在の喫煙者の死亡率も 38.5%と高かった。COVID-19 症例の COPD 有病率は低かったが、COVID-19 感染は COPD の重症度と死亡率に関連していた。元喫煙者や一度も喫煙したことがない人と比較して、現在の喫煙者は合併症と死亡のリスクが高かった。COPD 患者と現在の喫煙者の COVID-19 リスクを低減するには、効果的な予防策が必要です。

出典

<https://www.ncbi.nlm.nih.gov/pubmed/32392262>

アクセス日：2020-5-13

情報カテゴリ：学術団体以外の組織・施設からの情報

主に該当する領域区分：全般

タイトル：Rehabilitation considerations during the COVID-19 outbreak

概要：Pan American Health Organization(PAHO)から出された COVID-19 発生時のリハビリに関する考慮事項です。1.重症 COVID-19 患者の管理におけるリハビリテーションの役割。2.COVID-19 以外の患者さんのリハビリテーションの継続性についての考察。3.国・行政のための行動。4. サービス提供者に対する行動(例:病院、リハビリテーションセンター、個人事業所)についてまとめられています。

出典

<https://iris.paho.org/handle/10665.2/52035>

アクセス日：2020-5-12

情報カテゴリ：学術団体からの情報

主に該当する領域区分：全般

タイトル：Considerations for Postacute Rehabilitation for Survivors of COVID-19

概要：、急性期医療からの退院後の COVID-19 患者のリハビリテーションの必要性についてまとめられています。

出典

<https://publichealth.jmir.org/2020/2/e19462/>

アクセス日：2020-5-11

情報カテゴリ：学術団体からの情報

主に該当する領域区分：(高度) 急性期

タイトル：Awake Prone の紹介

概要：Emergency Medicine Practice (EMP) COVID-19 特集を京都府立医科大学救急医療学教室で翻訳されたページの URL を共有します(Facebook で紹介されています)。EMP とは Icahn School of Medicine at Mount Sinai の教授である Andy Jagoda 氏が Editor in Chief を務める救急に関する総説集です。「Awake Prone」に関しては「非挿管下」での腹臥位療法の有用性についての解説です。本文にも紹介のある通り「EMCrit」で非常に実践的な内容を得ることができます。軽症患者の呼吸リハビリテーションの一助になるかと存じます。

出典

<https://www.ebmedicine.net/topics/infectious-disease/COVID-19/Japanese>

アクセス日：2020-5-12

情報カテゴリ：学術論文情報

主に該当する領域区分：全般

タイトル：SYSTEMATIC RAPID "LIVING" REVIEW ON REHABILITATION NEEDS DUE TO COVID-19: UPDATE TO MARCH 31 2020

概要：COVID-19 患者のリハビリの必要性に関するシステマティックレビュー。入院中の COVID-19 患者には早期リハビリを実施すべきである。隔離や封鎖で制限がかけられている高齢 COVID-19 患者には、フレイルやサルコペニア、認知機能低下やうつを減少するためにも多種類の運動（エアロバイク、レジスタンス、バランス、協調運動など）を 5-7 日/週実施するべきである。電話による在宅リハビリテーションの可能性も示唆している。

出典

<https://www.minervamedica.it/en/journals/europa-medicophysica/article.php?cod=R33Y9999N00A20042201>

アクセス日：2020-5-12

情報カテゴリ：学術論文情報

主に該当する領域区分：在宅期

タイトル：COVID-19 肺炎後の退院後の患者フォローアップ。感染管理のための考察。

概要：COVID-19 患者は、退院後に再陽性、長期的な肺機能低下、PTSD などの問題を抱える可能性が高くなっている。そのため、退院後のフォローとして、PCR 検査の実施、画像所見の観察、精神心理面の評価が必要。

出典

<https://www.ncbi.nlm.nih.gov/pubmed/?term=32383776>

アクセス日：2020-5-11

情報カテゴリ：学術論文情報

主に該当する領域区分：（高度）急性期

タイトル：Respiratory Parameters in Patients With COVID-19 After Using Noninvasive Ventilation in the Prone Position Outside the Intensive Care Unit

概要：もう一つ JAMA からの Research Letter のご紹介です。NPPV 管理の COVID-19 患者に対する腹臥位の case series です。腹臥位管理中の酸素化は向上していますが、仰向けに戻せば酸素化も元の値まで戻っています。

出典

<https://jamanetwork.com/journals/jama/fullarticle/2766291>

アクセス日：2020-5-15

情報カテゴリ：学術論文情報

主に該当する領域区分：（高度）急性期

タイトル：Use of Prone Positioning in Nonintubated Patients With COVID-19 and Hypoxemic Acute Respiratory Failure

概要：JAMA の Research Letter。COVID-19 非挿管患者に対する腹臥位の効果を検証した短施設前向き before-after study です。COVID-19 と低酸素血症呼吸不全で ICU 外で管理された患者を対象とした本研究では、63%が3時間以上の PP に耐えられた。しかし、PP 中に酸素濃度が上昇したのはわずか 25% であり、再び仰臥位にし酸素濃度が維持されたのは半数の患者でしかなかった。PP の臨床試験は、良好な成績を残す患者を選択するためのメカニズムであるか、あるいは一部の患者に有用である可能性がある。

出典

<https://jamanetwork.com/journals/jama/fullarticle/2766292>

アクセス日：2020-5-15

情報カテゴリ：学術団体からの情報

主に該当する領域区分：（高度）急性期

タイトル：A commentary on Prone Position Plexopathy during the COVID-19 pandemic

概要：重症 COVID-19 に対する腹臥位療法の合併症の一つである神経叢障害について、イギリス整形外科学会が解説しています。腹臥位中の注意点、予防的ポジショニング、診断や治療についてまとめられています。

出典

<https://www.boa.ac.uk/policy-engagement/journal-of-trauma-orthopaedics/journal-of-trauma-orthopaedics-and-coronavirus/a-commentary-on-prone-position-plexopathy.html>

アクセス日：2020-5-12

情報カテゴリ：学術論文情報

主に該当する領域区分：（高度）急性期;回復期

タイトル：COVID 患者における神経学的症状

概要：中国からの報告です（JAMA4 月 10 日 publish）。214 例のうち、36.4%に意識障害等の神経学的症状を認めた。SARS-COV-2 は、血行性または逆行性の神経細胞ルートを通じて中枢神経系に侵入する可能性。呼吸リハビリテーションに限らず、リハビリテーション進行において神経学的障害の影響は大きく、理学療法士も把握すべき情報と考えます。

出典

<https://jamanetwork.com/journals/jamaneurology/fullarticle/2764549>

アクセス日：2020-5-12